

1. 学勢調査概要

調査目的及び沿革

学勢調査は、本学における教育改善や施設建設・整備、学内サービス向上と言った大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査です。学勢調査は本学独自の取り組みであり、国勢調査になぞらえて、「学勢調査」と名付けられました。学勢調査は、2004年の試行を経て、2005年より本格実施となり、学生が分析と提言を行うシステムとなりました。今回の学勢調査2012はこのシステムとなってから4回目となり、過去3回の調査ではいずれも学生の意見を大学側に伝える大きな役割を果たしています。

今回行われた学勢調査（以下、「本学勢調査」と記します）の回答者数は、前回は最多の回答数であったのに対して減少しています。（学部 4803 名、修士課程 3457 名、博士課程 1553 名、研究生 105 名、全学 9918 名に対し、回答者計 1956 名）（図 1-1）。原因の一つとして、学勢調査の広報方法に問題があったと考えられます。回答数を増加させ、これからの学勢調査を有用なものとするためには、時代に合わせた広報活動を模索していく必要があります。回収率が上昇すると信頼性が向上するという統計学的な観点からも、回答数を増加させる事がこれからの課題だと考えています。

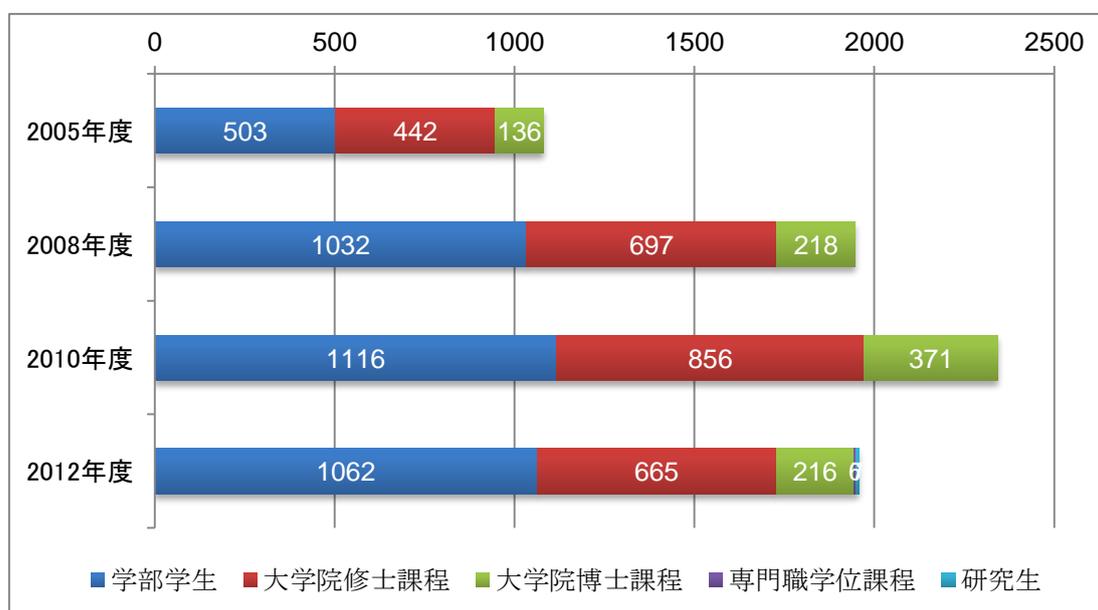


図 1-1 学勢調査回答者数の推移
(専門職学位課程、研究生の項目は2012年度のみ)



1. 学勢調査概要

本学以外で行われている一般的な学生生活実態調査は、おもに大学の教職員によって、学生の生活や意見が調査・報告され、大学事業へ反映されます。この方法では、大学側が学生の意見や動向を間接的に把握して、新規のサービスや施設を導入するので、大学側の提供するサービスが学生の要望にできていない場合があります。一方、本学の学勢調査では、調査実施前の項目検討から調査実施後に具体的改善案を提言するまで学生（学勢調査スタッフ）が行います。前者に比べ、調査結果と改善案提言の繋がりが強化しているため、より正確に大学側が学生の要望に応じたサービスを提供することが可能になります。これまでの具体的な実績としては、学食でのハラルメニューの導入、講義室の改修、電子掲示板の設置、リフレッシュ・ルームの拡充、コンビニエンス・ストアの出店、グラウンドの人工芝化が挙げられます。また、教職員の意識改革も進みつつあり、教職員と学生のすれ違いや不満足を解消する役割を果たしつつあります。

また、2011年3月に発生した東日本大震災を受けまして、学生の安全や大学と社会との関係に関する項目として、防災関連の調査項目を追加しました。

学勢調査における、大学、学生、学勢調査スタッフの役割関係図を図1-2に示します。

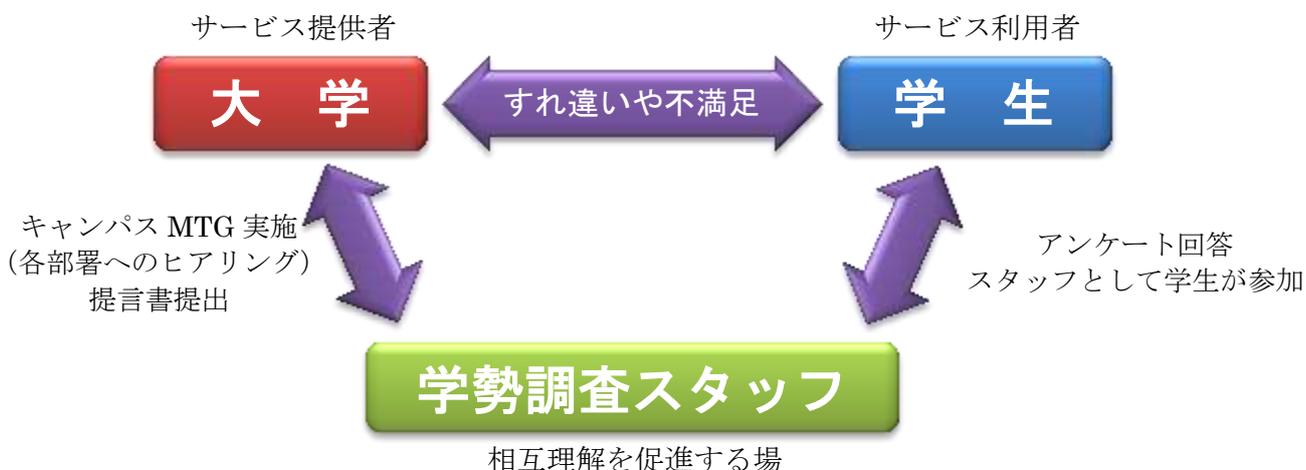


図 1-2 大学、学生、学勢調査スタッフの役割関係



調査母体

教育推進室学勢調査WG（主査：岩附信行教授）が、学生支援GP（Good Practice）の協力を得て、学生スタッフを募集して実施しました。

調査項目の検討

前回の学勢調査2010スタッフに新たなスタッフを募集し、計7回に渡って、調査項目の検討と、新項目の選定を行いました。その際には、学内関係部署より新たに加えて欲しい項目案を提示していただきました。会議の記録は下記の通りです。

第1回	2012年	5月24日（木）	顔合わせ・方針の確認
第2回	2012年	6月6日（水）	項目検討（2．学習状況について）
第3回	2012年	6月13日（水）	項目検討（3．キャンパスライフについて）
第4回	2012年	6月20日（水）	調査方法について
第5回	2013年	6月27日（水）	項目検討（1．生活基盤について）
第6回	2012年	7月4日（水）	新規項目検討
第7回	2012年	7月11日（水）	調査項目決定

調査時期

本学勢調査は、2012年10月1日～同年10月31日に行われました。

調査対象

本学勢調査は、本学に在籍している学部、修士、博士学生と専門職大学院生、研究生を対象としました。

調査事項

「11．調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。また、今回の調査でも、本学学生のみならず生の声を取り入れるために、自由記述欄を多く設定しております。

調査方法

本学勢調査は、オンライン上に設置した専用調査ページを通じて実施しました。その際、回答者が、本学学生であることの確認として、学外からのアクセスに対しては本学学生でない場合は知り得ないと考えられる質問を行い、正解者のみ調査への回答を可能としました。



1. 学勢調査概要

分析方法

アンケートによる調査データは項目ごとに分類し、調査と同時に募集した学生スタッフがデータ分析、問題発見、原因分析、改善策議論を行いました。学生スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

- リーダー班 …… 全体の進捗状況管理
- 学習、施設、図書館班 …… 本学学生の学習状況、施設、図書館について
- サービス、生協、防災班 …… 本学の各種サービス、生協、防災について
- データ班 …… データ整理、解析

全体会議の記録

第1回	2012年 11月 12日 (月)	学勢調査の説明・スタッフ顔合わせ
第2回	2012年 11月 21日 (水)	学勢調査の説明・班分け
第3回	2012年 12月 5日 (水)	定量・定性データ分析途中報告
第4回	2012年 12月 21日 (金)	キャンパスミーティングの準備
第5回	2013年 1月 11日 (金)	キャンパスミーティングの準備
第6回	2013年 2月 1日 (金)	全学を通して重要な提言の決定
第7回	2013年 3月 8日 (金)	最終確認

全体会議以外に、適宜各班ごとに会議を行いました。



教職員の方の意見の取り入れ

提言案を作成するにあたり、キャンパスミーティングとメールによる質問を行いました。キャンパスミーティングとは、調査データを基に作成した提言案や質問を大学各部署に提出し、それを基に教職員の方にヒアリングを行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより不要な誤解を避け、実りある意見交換ができ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回ご協力頂いた部署は以下の通りです。

- 学務部学生支援課 …… 本学学生生活全般について
- 学務部教務課 …… 本学教務サービスについて
- 施設運営部施設安全企画課
すずかけ台地区事務部総務課，学務課 …… 本学施設サービスについて
- 総務部評価・広報課 …… 本学広報活動について
- 研究推進部情報図書館課 …… 本学図書館について
- 研究推進部情報基盤課
学術国際情報センター …… 本学情報ネットワークについて
- 東京工業大学生協本部 …… 本学生協について
- 外国語研究教育センター
国際部留学生交流課，国際事業課 …… 本学外国語教育、留学について

公表および報告

本提言書は本学学長に提出後、インターネットの専用サイトおよび冊子、CD-ROM 形式において公表されます。

